

# 小学校における地理的内容の展開とその特徴

— イギリス初等地理テキストブック *Collins Primary Geography* の分析から —

阪上弘彬・村田 翔<sup>1</sup>・由井義通・杉谷真理子・佟亜斎娜・中村勇介<sup>1</sup>・  
橋本訓典<sup>1</sup>・今井貴秀<sup>1</sup>・氏原 秀<sup>1</sup>・兒玉泰輔<sup>1</sup>・茂松郁弥<sup>1</sup>・竹下紘平<sup>1</sup>・  
陶 子<sup>1</sup>・潘 意涵<sup>1</sup>・山本 稜<sup>1</sup>・横川知司<sup>1</sup>・吉川友則<sup>1</sup>・劉 思純<sup>2</sup>  
(2016年10月6日受理)

Geographical Contents in Primary School:  
An Analysis of the English Geography Textbook “*Collins Primary Geography*”

Hiroaki Sakaue, Sho Murata<sup>1</sup>, Yoshimichi Yui, Mariko Sugitani, Yaqina Tong,  
Yusuke Nakamura<sup>1</sup>, Kuninori Hashimoto<sup>1</sup>, Takahide Imai<sup>1</sup>, Shu Ujihara<sup>1</sup>, Taisuke Kodama<sup>1</sup>,  
Fumiya Shigematsu<sup>1</sup>, Kohei Takeshita<sup>1</sup>, Zi Tao<sup>1</sup>, Yihan Pan<sup>1</sup>, Ryo Yamamoto<sup>1</sup>,  
Satoshi Yokogawa<sup>1</sup>, Tomonori Yoshikawa<sup>1</sup> and Sichun Liu<sup>2</sup>

**Abstract:** In this study, we have analyzed the English geography textbook “*Collins Primary Geography*”, in order to clarify the characteristics of geographical contents in primary school. Results of this study are as follows: age (grade)-appropriate teaching through different process of leaning (awareness, understanding, cognition and value judgement) and physical, human, environmental geography and topography as a content. However, there are no contents across physical and human geography, one of the features of geography, in the textbook.

Key words: Geographical Education, England, Geography Textbook for Primary School  
キーワード：地理教育，イギリス，初等地理テキストブック

## I. はじめに

我が国の社会科教育，地理教育ではしばしばイギリスの地理教科書を対象として，その内容構成やアクティビティなどについて研究が行われてきた。管見の限りでは，第1表に示す先行研究がある。第1表が示すように，我が国ではさまざまな視点からイギリス地理テキストブックの研究がおこなわれてきたことがわかる。その一方で，これらの研究では，主に中等教育（KS3：12～14歳）用の地理テキストブックが用いられており，初等（KS1：5～7歳，KS2：8～11歳）用地理テキストブックを題材とした研究<sup>1)</sup>は，なされて

こなかったことが指摘できる。

本稿では，2014年版ナショナル・カリキュラム地理<sup>2)</sup>（以下，NC地理とする）KS1およびKS2対応したScoffham and Bridge (2014a,b,c,d,e)の初等地理テキストブック *Collins Primary Geography* をとりあげる。この地理テキストブックの分析を通じて，初等段階における地理的内容の特徴について明らかにすることを本稿の目的とする。中等地理テキストブックに関する研究が多い中で，初等教育における地理テキストブックを対象とするのは，中等教育における地理的スキルや地理的考え方の基礎的段階，つまり中等教育への接続性を考慮していかに地理的思考やスキルの習得を発達段階に応じて組み立てているのかを解明することは，我が国の初等段階における地理的内容のカリキュラムや指導方法の改善を検討するうえで，十分に意義

<sup>1)</sup>広島大学大学院教育学研究科博士課程前期

<sup>2)</sup>広島大学大学院教育学研究科研究生

第1表 日本におけるイギリス地理テキストブックに関する先行研究

研究視点・領域	先行研究
防災（教育）	森田 (2014), 由井ほか (2016a)
環境（教育）	伊藤 (1998)
開発（教育）	武元 (2001), 藤谷 (2001), 梅村 (2006)
観光教育	佐藤 (2012a, 2012b)
市民性教育（シティズンシップ）	井上 (1988), 水山 (2002), 伊藤 (2002, 2003)
地誌学習	荒井 (2005)
学習意義, アクティビティ	由井ほか (2001-2004), 阪上ほか (2015)
イギリステキストブック研究	志村 (2010a)

筆者作成。

第2表 2014年版 NC 地理における全体目標

<p>ナショナル・カリキュラム地理はすべての生徒（児童）に対して以下の目標を掲げる：</p> <p>■陸上と海中の両方で、典型的な自然・人文的特徴ならびにプロセスの作用を理解するための地理的背景をどのようにもたらすのかを含む、地球規模で重要な場所の位置の文脈の知識を成長させる。</p> <p>■世界の鍵となる自然・人文地理的特徴を生じさせるプロセス、それらがどのように相互依存しているか、どのように空間的多様性をもたらし、長期にわたり変化したのかを理解する。</p> <p>■以下の必要とされる地理的スキルに優れている：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒（児童）の地理的プロセスの理解を深めるフィールドワークの経験を通じて収集された幅広いデータをまとめる、分析する、コミュニケーションをする。</li> <li>・地図、図解、地球儀、航空写真そして地理情報システム（GIS）を含む幅広い地理情報源を理解する。</li> <li>・地図、数的・量的スキル、書くことを通じたものを含む、様々な方法で地理情報を伝える。</li> </ul>
--

Department for Education (2013) から筆者作成。

があるものであると考える。

本稿では、まず2014年版 NC 地理における学習目標（第Ⅱ章）、および初等地理テキストブック *Collins Primary Geography* の単元構成・教材のレイアウトの特徴（第Ⅲ章）を示す。最後に、それらの分析結果をもとに、地理的内容について検討する（第Ⅳ章）。

## Ⅱ. 2014年版ナショナル・カリキュラム地理の概要

中等 NC 地理 (KS3) とともに初等 NC 地理 (KS1/2) は、2013年に改訂版が公表された。本章では、2014年版 NC 地理の概要について検討する。

### 1. 全体目標

2014年版 NC は、重要な概念とプロセス重視から、知識ベースのカリキュラムへ移行した (Lambert and Hopkin, 2014; ブルックス, 2016)。第2表は、2014年版 NC 地理における全体目標を示したものである。2013年版 NC 地理では、第2表に示されているように、知識・理解（場所・位置、自然・人文地理各々の特徴と相互作用）、技能（地理的スキルとフィールドワーク）に関する項目が掲げられている。

初等 NC 地理の旧版にあたる DfEE and QCA (1999) の2000年版 NC 地理<sup>3)</sup>においても、知識・理解（場所の知識と理解、パターンとプロセスの知識と理解、環

境変化と持続可能な開発の知識）、技能（地理的探究と地理的スキル）に関する項目が掲げられているが、環境・持続可能な開発に関する知識・理解が削除されていることがわかる。知識・理解の項目の減少に加えて、項目内で示される内容（知識）に関する記述量が減少していること、改訂の度に強調されてきた「探究」に関する言及がみられないことが、旧版との比較を通して指摘できる。

### 2. 初等地理における目標

#### 1) KS1

KS1における目標および各項目における到達目標は、第3表に示すとおりである。

KS1の目標は、3つのスケール（世界、UK、身近な地域）における地理的事象・場所について、人文・自然地理の視点からの理解、地理的スキルの活用を通じて、位置に対する気づき (locational awareness) を獲得・成長させることに重点が置かれていると考えられる。

#### 2) KS2

KS2における目標および各項目における到達目標は、第3表に示すとおりである。

KS2においても、世界の場所・位置に関する知識・理解、理解の視点としての人文・自然地理、知識を強化するための地理的スキルとフィールドワークの活用が目標の中に設定されている。KS2では、KS1で生徒（児童）が獲得した知識・理解をもとにその成長を目

第3表 2014年版 NC 地理 (KS1/KS2) における到達目標

KS1の目標： 生徒（児童）は世界、UKそして身近な地域に関する知識を成長させるべきである。人文・自然地理に関する基礎的な教科固有の語彙を理解し、直接観察を含む地理的スキルを使い始め、位置的な気づきを高めるべきである。		
知識	位置	<ul style="list-style-type: none"> <li>■世界七大陸と五海洋を挙げる、位置を突き止める。</li> <li>■UKの4つの国とその首都およびUKの周りの海の特徴を挙げる、位置を突き止める、確認する。</li> </ul>
	場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>■UKの小地域、対照的な非EU国の小地域の人文・自然地理の学習を通じて地理的な共通点と差異を理解する。</li> </ul>
	人文地理と自然地理	<ul style="list-style-type: none"> <li>■UKにおける季節ごとの、日々の気象パターンおよび赤道、北極、南極に関連した世界の熱帯と寒冷地域の位置を確認する。</li> <li>■以下に言及する基礎的な地理的語彙を活用する： ・浜辺、崖、海岸、森、丘、山、海、海洋、河川、土壌、谷、植生、季節と気象を含む鍵となる自然的特徴 ・都市、町、村、工場、農場、家、事務所、港、港湾と店を含む鍵となる人文的特徴</li> </ul>
地理的スキルとフィールドワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>■UKとその国々、並びにこのKSで学習される国、大陸そして海洋を確認するための世界地図、地図帳、地球儀を活用する。</li> <li>■地図上における特徴と道の位置を述べるためのシンプルなコンパス方位（東西南北）並びに位置や方角を示す言葉[例えば、近いと遠い；左と右]を活用する。</li> <li>■航空写真を活用、そしてランドマークと基本的な人文・自然的特徴を認識するための視点を計画する。</li> <li>■学校と校庭の地理、並びにその周囲の環境の人文・自然特徴を学習するための簡単なフィールドワークと観察スキルを活用する。</li> </ul>	
KS2の目標： 生徒（児童）は身近な地域を越えて、UK、ヨーロッパ、南北アメリカを含んだ知識と理解を成長させるべきである。これには、ある範囲の世界で最も重要な人文・自然的特徴の位置や特徴が含まれている。位置や場所の知識を強化するための地理的知識、理解、スキルの活用を成長させるべきである。		
知識	位置	<ul style="list-style-type: none"> <li>■環境的な地域、鍵となる自然・人文的特徴、国、そして主要都市に重点をおいたヨーロッパ（ロシアの位置を含む）、南北アメリカに焦点を当てた地図を活用しながら、世界の国の位置を突き止める。</li> <li>■UKの国々とその首都、地理的地域とそれに結びつく人文・自然的特徴、鍵となる地誌的特徴（丘、山脈、海岸と河川を含む）、土地活用のパターンを挙げる、位置を突き止める；そして長い時間をかけてこれらの側面のいくつかがどのように変化したかについて理解する。</li> <li>■緯度、経度、赤道、北半球、南半球、北回帰線と南回帰線、北極圏と南極点、グリニッジ子午線と時差帯（昼と夜を含む）の位置と重要性を確認する。</li> </ul>
	場所	<ul style="list-style-type: none"> <li>■UKの地域、ヨーロッパの国における地域、そして南北アメリカ内の地域の人文・自然地理の学習を通じて地理的な共通点と差異を理解する。</li> </ul>
	人文地理と自然地理	<ul style="list-style-type: none"> <li>■以下の鍵となる側面を記述、理解する： ・気候帯、生物群系と植生帯、河川、山脈、火山と地震、そして水循環を含む自然地理 ・居住と土地活用、貿易結合を含む経済活動、エネルギー、食糧、鉱物と水を含む自然資源の分布のパターンを含む人文地理</li> </ul>
地理的スキルとフィールドワーク	<ul style="list-style-type: none"> <li>■国の位置と学習される特徴を記述するための地図、地図帳、地球儀とデジタル/コンピューターマッピングを活用する。</li> <li>■UKや世界中の方位などの知識を強化するための8方位、4と6桁のグリッド参照、シンボルと凡例（OSマップの活用を含む）を活用する。</li> <li>■スケッチ地図、図解、グラフ、デジタルテクノロジーを含む幅広い方法を活用しながら、地域における人文・自然的特徴を観察、計測、記録そして発表するためのフィールドワークを活用する。</li> </ul>	

Department for Education (2013) から筆者作成。

指すとともに、KS1では「位置に対する気づき」だったものが、KS2ではより系統だった知識・理解の獲得を促すところに重点が置かれていると解釈できる。

### Ⅲ. *Collins Primary Geography* の概要

#### 1. テキストブックにおける単元構成

分析対象とする *Collins Primary Geography* は、6巻5冊（1および2巻は合本）から構成され、1および2

巻はKS1に、3～6巻はKS2に対応している。第4表は、*Collins Primary Geography* 全6巻の内容区分および単元名を整理したものである。

5冊の教科書には、それぞれ副題（1および2巻：私たちの周りの世界、3巻：調査、4巻：活動、5巻：変化、6巻：諸問題）が付されている。各巻の学習内容は、この副題および以下に示す学習項目によって組織されている。

KS1に対応した1および2巻では、学習項目として8

第4表 Collins Primary Geography の単元構成

巻・副題	内容区分(領域/項目)	単元名	小単元数
1および2巻 私たちの周りの世界	自然地理	宇宙の中の地球	4
		地球	4
	人文地理	天気と四季	5
		身近な地域	5
	地誌	地図と計画	4
		UK	2
		さまざまな環境	4
環境地理	世界地図	2	
	世界地図	2	
3巻 調査	自然地理	地球	3
		水	3
	人文地理	私たちの周りの水	3
		気象	3
	環境地理	世界中の天気	3
		住居	3
	地誌	村	3
		仕事と旅行	3
	環境地理	旅行	3
		環境	3
	地誌	田舎への興味	3
		場所	3
	場所	スコットランド	3
		場所	3
場所	フランス	3	
	場所	3	
場所	南米	3	
	場所	3	
自然地理	地球	3	
	海岸	3	
4巻 活動	自然地理	水	3
		気象	3
	人文地理	気象パターン	3
		住居	3
	環境地理	町	3
		仕事と旅行	3
	地誌	食べ物と店	3
		環境	3
	場所	町への興味	3
		場所	3
場所	北部アイルランド	3	
	場所	3	
場所	ドイツ	3	
	場所	3	
自然地理	地球	3	
	海と海洋	3	
5巻 変化	自然地理	水	3
		気象	3
	人文地理	大地の侵食	3
		住居	3
	環境地理	都市	3
		仕事と旅行	3
	地誌	仕事	3
		環境	3
	場所	汚染	3
		場所	3
場所	ウェールズ	3	
	場所	3	
場所	ギリシア	3	
	場所	3	
場所	北米	3	
	場所	3	
自然地理	地球	3	
	アフリカ	3	
6巻 諸問題	自然地理	休むことのない地球	3
		水	3
	人文地理	飲料水	3
		気象	3
	環境地理	身近な天気	3
		仕事と旅行	3
	地誌	計画問題	3
		環境	3
	場所	運輸	3
		場所	3
場所	保護	3	
	場所	3	
場所	イングランド	3	
	場所	3	
場所	ヨーロッパ	3	
	場所	3	
場所	南米	3	
	場所	3	
場所	アジア	3	
	場所	3	

Scoffham and Bridge (2014a,b,c,d,e) から筆者作成。

項目(宇宙の中の地球, 地球, 天気と四季, 身近な地域, 地図と計画, UK, さまざまな環境, 世界地図)が示されている。イギリス地理教育の伝統的な内容区分である4領域(自然地理, 人文地理, 環境地理, 地誌)から, 上述の8領域は以下のように区分できる; 自然地理(宇宙の中の地球, 地球, 天気と四季), 人文地理(身近な地域, 地図と計画), 環境地理(さまざまな環境), 地誌(UK, 世界地図)。

KS2に対応した3から6巻の各巻では, 学習項目として7項目(地球, 水, 気象, 居住, 仕事と旅行, 環境, 場所)が示され, 4領域からみると以下のように区分できる; 自然地理(地球, 水, 気象), 人文地理(居住, 仕事と旅行), 環境地理(環境), 地誌(場所)。

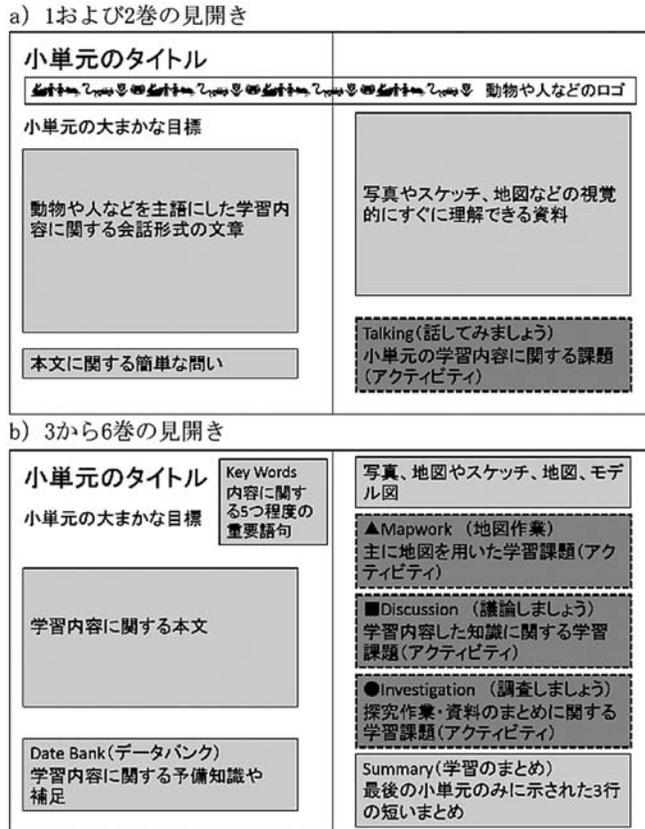
基本的にはNC地理の示す「場所・位置」, 「自然・人文地理各々の特徴と相互作用」, 「地理的スキルとフィールドワーク」から各巻の単元が構成されている。地理的技能を示した「地理的スキルとフィールドワーク」に関しては, 独立した単元として「地図と計画」や「世界地図」がKS1において設定されているものの, KS2の段階では, 地理的技能やフィールドワークそのものに焦点化した単元はみることができない。しかしながら, KS2では, 地理的技能やフィールドワークに関するアクティビティが各小単元に設定されており, 上述の内容は繰り返し学習されている。

## 2. テキストブックの教材レイアウト

KS1対応の1および2巻, KS2対応の3から6巻では, テキストブックのレイアウトが異なる。第1図は, 1および2巻, 3から6巻の見開きのレイアウトを示したものである。

1および2巻の本文は, 動物や人による対話形式の形がとられ, 学習する地理的事象を物語のように学習者に伝えている。KS1は, 日本では生活科にあたる学年であるため, 難しい地理的事象よりも, 児童(生徒)の経験をもとにした, あるいは身の回りの出来事や気づきに焦点を当てた内容やその記述を多くみることができる。またイギリスの地理テキストブックの特徴である学習活動(アクティビティ)もまた設定されており, 対話型の本文から読み取れる内容に関する簡単な問い(見開き左下), および小単元に関する内容<sup>4)</sup>(話してみましょう)をみることができる。

KS2に対応する3から6巻では, 1および2巻と比べて教材のレイアウトが大きく異なる。本文の記述量や記述方法(説明調)の増加に加え, 見開き内で示される図表も, モデル図などより抽象的な構造を示すものが多い。最大の特徴としては, アクティビティの細分化が挙げられる。1および2巻では「話してみましょう」の一つだけだったものが, 地図を用いたアクティビティである「地図作業」, 学習した知識を確認・活用する「議論しましょう」, そしてフィールドに出てデータを収集したり, 資料をまとめたりする「調査しましょう」の3つに増加した。とりわけ, 後者2つのアクティビティは, 「地理的スキルとフィールドワーク」に関するものであり, 各小単元では固有の地理的事象の知識だけでなく, 地理的技能を関連させながら学習が展開する。



第1図 テキストブックの見開きデザイン

筆者作成。

上述のように、初等地理テキストブック *Collins Primary Geography* は、学習者の発達段階に合わせて、本文（記述量、物語形式から説明形式へ）、図表（視覚的にわかりやすいものから構造図などのモデルへ）が変化している。

これらを踏まえて次章では、各内容（自然地理、人文地理、地誌）における内容展開<sup>5)</sup>について検討する。

#### IV. *Collins Primary Geography* の内容展開

##### 1. 自然地理

自然地理的内容に関しては前章で示したように、主に3つの項目（地球、水、気象）からなる。地球に関する項目では主に大・小地形やその形成理由（河川、海洋、山脈、地震など）、水に関する項目では水と人々の関わり（河川作用、河川管理、水問題など）、気象では様々な気象・四季と場所との関係（多様な気候、異常気象、四季、気候問題など）に関する学習内容が

設定されている。また3つの項目は、1および2巻では地形・水・気候に関する気づき、3巻ではその定義、4および5巻では一般法則・概念や人々への影響、6巻では関係する問題を視点として、構成されている。

単元展開では、多くの単元においてイギリスの特定の地域を（身近な地域からイギリス全体）とりあげながら、項目に関する学習がなされている。

どの項目も、自然地理的な知識や一般法則の獲得に重点が置かれているものの、学年が上がるにつれて、生活への影響、あるいは人々の介入による問題といった内容もまた扱われており、学習者個人の価値判断や解決案の提案に踏み込んだアクティビティ（例えば、人々が大気汚染の悪化を防ぐにはどうすればいいでしょうか、など）が設定されていた。

##### 2. 人文地理

人文地理的内容に関しては、2つの項目（住居、仕事と旅行）から構成されている。住居に関する項目では、規模の異なる居住空間とそれに関する問題（身近な地域、村、町、都市、計画問題）、仕事と旅行は、人々

第5表 地誌的内容の構成と展開

巻	地域区分	学習する地域・国	小単元1	小単元2	小単元3
6巻	UK	イングランド	イングランドの学習： 静態地誌的内容	サンドイッチの理解： 村の発展の歴史	サンドイッチでの生活： 生活の質
	ヨーロッパ	EU 諸国	ヨーロッパの紹介： 静態地誌的内容	ヨーロッパ連合： 統合と共通政策	ヨーロッパを祝う： ヨーロッパの多様性
	南北アメリカ	アマゾン	アマゾンの学習： 熱帯雨林の現象	熱帯雨林の活用： 熱帯雨林での生活と 熱帯雨林の重要性	アマゾンを救う： 熱帯雨林の保護
	アジア・ アフリカ	東南アジア・ シンガポール	東南アジア： 静態地誌的内容	シンガポールの調査： 静態地誌的内容	シンガポールのある家族： 将来計画
5巻	UK	ウェールズ	山脈と溪谷： 静態地誌的内容	Blaenavon の物語： 炭鉱町の歴史	Big Pit への訪問： 炭鉱の保存
	ヨーロッパ	ギリシア	ギリシアの紹介： 静態地誌的内容	アテネの夏： 人々の生活と町並み	ギリシアのある島： 島の特色
	南北アメリカ	カリブ海・ ジャマイカ	カリブ海の紹介： 静態地誌的内容	ジャマイカの理解： 静態地誌的内容	ジャマイカの生活： ジャマイカにおける変化
	アジア・ アフリカ	アフリカ・ ケニア	アフリカの紹介： 静態地誌的内容	ケニア： 静態地誌的内容	ケニアでの生活： 今日のケニアの変化・問題
4巻	UK	北部アイルランド	北部アイルランドの紹介： 静態地誌的内容	北部アイルランドでの生活： 人々の仕事	Londonderry への旅： 郊外から中心地までの景観
	ヨーロッパ	ドイツ	ドイツを知ろう： 静態地誌的内容	ルール工業地域： イギリスから道のり、工業の町	Dinslaken での生活： Dinslaken の変化
	南北アメリカ	カナダ	北アメリカの紹介： 静態地誌的内容	カナダの理解： 静態地誌的内容	ロッキーを横断して： 自然的特徴
	アジア・ アフリカ	ヘルシャ湾・ UAE	ヘルシャ湾： 静態地誌的内容	UAE の紹介： 静態地誌的内容	UAE の探索： 自然環境、他国とのつながり
3巻	UK	スコットランド	スコットランドの紹介： 静態地誌的内容	エディンバラ、 スコットランドの首都： 町並み	Mull、スコットランドのある島： 島の特色
	ヨーロッパ	フランス	フランスの紹介： 静態地誌的内容	食物の栽培： フランスの農業	車の生産： Flins の車産業、人々の仕事
	南北アメリカ	チリ、 ガラパゴス諸島	南アメリカの紹介： 静態地誌的内容	チリへの注目： 静態地誌的内容	ガラパゴス諸島： 位置と生物の多様性
	アジア・ アフリカ	インド	アジアの紹介： 静態地誌的内容	インド、アジアの国： 静態地誌的内容	Pallipadu、インドのある村： 村や人々の生活の様子
1および 2巻	UK	UK	UK の国々： UK を構成する4つの地域	UK の山脈と河川： 主要な山脈と河川的位置	
	世界地図	世界	世界大陸： 大陸と海洋の位置や名称	世界の国々： 主要な国の位置や形	

Scoffham and Bridge (2014a,b,c,d,e) から筆者作成。

の経済活動（旅行、農業・商業、運輸など）に関する学習内容が設定されている。

居住に関する学習では、学年が上がるにつれて小規模から大規模へと空間が配列されている。身近な地域では、生活（住居）することに関する気づき（生活に必要なものを挙げる、家の素材の違い、など）が重視され、村、町、都市になると機能（町の中で大切なこと3つを挙げなさい、など）や形成理由（都市が大きくなるのはなぜか、など）など、固有事象とともに一般概念や法則に関する学習の割合が高まる。

仕事と旅行に関する学習では、各項目に関する事実（例えば、農場の種類、交通の種類など）に加え、一般的な法則（なぜ第一次産業の従事者が減少しているか、など）、そして経済活動に対する評価（どの仕事か最もきつと思うか、など）を問うアクティビティもまた設定されている。

### 3. 地誌

地誌的内容で扱われるのは第5表に示すように、

UK、ヨーロッパ、南北アメリカ、アジア・アフリカである。

1および2巻では、地誌に関する学習は2つの小単元から構成されており、NC 地理 (KS1) の知識「場所」に対応した内容になっていることがわかる。見開きに設定されたアクティビティでは、UK を構成する地域について話し合う、面白い国の形をしているものほどれかなど、児童（生徒）の気づきや興味付けを意図したものが設定されている。

3から6巻においても、NC 地理 (KS2) の知識「場所」に対応した地域や国が取り上げられている。第5表から読み取れるように、小単元1および多くの小単元2では、静態地誌的内容が扱われ、そこでは自然あるいは自然地理的項目（景観や河川、仕事や居住、運輸）から学習する地域・国に関する基本的な情報が記述されている。残りの小単元2および小単元3では、学習する国・地域における小地域をとりあげ、地域特有の事象から地域を記述している。またアクティビティに関し

ては、地域に関する事象や事実（例えば、面積や位置など）を確認するものが全体を通して多いものの、学年が上がるにつれて理由を説明するもの、とりわけ6巻では価値判断をするもの（例えば、未来のシンガポールにとって最も重要な問題は何だと思いますか、など）が多く設定されている。

上述から地誌的内容では、学習する地域の特色を学習すること、言い換えれば世界像の形成に重点が置かれていることがわかる。そのため地誌的内容の教授方法は、地域性や地域構造を学習者が理解し、世界像を形成するサンプル・スタディが用いられていると考えられる。

## V. まとめ

本稿で検討した初等地理テキストブック *Collins Primary Geography* では、学習者の発達段階に考慮した点（教材レイアウトおよび学習内容の展開）を多くみることができた。

テキストブックの副題が示すように、KS1に対応する1および2巻では、身の回りの地理的現象・事象への気づき、KS2に対応する3巻以降では、地理的事象をわかる、理解する、認識する、価値判断する、というプロセスが意識されていた。また教科専門的な内容に関しては、自然地理、人文地理、環境地理、地誌の4つから区分することができた。とりわけ、系統的内容である自然地理、人文地理に関しては、学年が上がるにつれて、一般法則や問題の解決策の検討を学習する構成になっていた。地誌的内容に関しては、サンプル・スタディの考えのもと、地域の特色を学ぶことに重点が置かれていた。

その一方で、自然地理と人文地理の各視点から、系統的に学習する内容は設定されていたものの、地理の特色である自然地理と人文地理、場合によっては環境地理を横断した総合的な見方を学習する内容はみることができなかった。

## 【付記】

本稿は、2016年度前期開講の地理認識内容学特講(由井担当)の一部をもとに、加筆・修正を加えたものである。

## 【注】

1) 初等用の教材（テキストブック）を分析した研究も僅かではある（例えば、志村、2010b）。同研究で

分析された教材（テキストブック）は地図学習に特化したものであり、他のテキストブックとはその目的や内容構成が異なっている。この点からも、初等用地理テキストブックに関する研究は、ほとんどないといえる。

- 2) NC 地理は2016年現在、4回（1995年、1999年、2007年、2013年）改訂された。ただし、2007年に改訂されたのはKS3のみであり、KS1およびKS2の旧版は1999年に改訂されたものである。なお2013年発行のNC地理に関しては、文献によっては2014と表記されていることがあるため、本稿においても2014年版NC地理と表記する。
- 3) 刊行は1999年にされたが、多くの先行研究では2000年版という表記がなされている。本稿においても、2000年版と表記する。
- 4) 例えば、家に関する小単位では「イラストの家は、すべて同じ素材で建てられていますか」というアクティビティが設定されている。
- 5) 環境地理に関しては、由井ほか(2016b)において、その学習展開や特質が述べられている。

## 【参考文献】

- DfEE and QCA (1999): *Geography: The National Curriculum for England. Key Stage 1-3*. HMSO, 43p.
- Department for Education (2013): *Geography programmes of study: key stages 1 and 2 National curriculum in England*. [https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment\\_data/file/239044/PRIMARY\\_national\\_curriculum\\_-\\_Geography.pdf](https://www.gov.uk/government/uploads/system/uploads/attachment_data/file/239044/PRIMARY_national_curriculum_-_Geography.pdf) (最終閲覧日：2016年9月1日)
- Lambert, D and Hopkin, J. (2014): A possibilist analysis of the geography national curriculum in England. *International Research in Geographical and Environmental Education*, **23** (1), pp.64-78.
- Scoffham, S. and Bridge, C. (2014a): *Primary Geography: World around us Pupil Book1 and 2*. Glasgow: HarperCollins Publishers.
- Scoffham, S. and Bridge, C. (2014b): *Primary Geography: Investigation Pupil Book3*. Glasgow: HarperCollins Publishers.
- Scoffham, S. and Bridge, C. (2014c): *Primary Geography: Movement Pupil Book4*. Glasgow: HarperCollins Publishers.
- Scoffham, S. and Bridge, C. (2014d): *Primary*

- Geography: Change Pupil Book5*. Glasgow: HarperCollins Publishers.
- Scoffham, S. and Bridge, C. (2014e): *Primary Geography: Issues Pupil Book6*. Glasgow: HarperCollins Publishers.
- 荒井正剛 (2005): 中学校社会科地理的分野における外国地誌学習のあり方—イギリスの地理教育を参考にして—, *新地理*, **53** (3), pp.1-19.
- 伊藤直之 (1998): 資源・環境管理のための地理教育—Longman Geographyの場合—, *教育学会教育学研究紀要*, **44** (2), pp.149-154.
- 伊藤直之 (2002): 問題解決を基盤とした地理教育—イギリス地理教材 Problem-Solving Geographyを手がかりにして—, *社会系教科教育学研究*, (14), pp.25-32.
- 伊藤直之 (2003): 意思決定を対象化した地理教育—イギリス地理教材 Decision-Making Geographyの分析を通して—, *広島大学大学院教育学研究科紀要*, 第二部, 文化教育開発関連領域, **51**, pp.61-70.
- 井上京子 (1998): グローバルな資質を育成する環境問題の学習方法論—イギリス地理教科書『地理:人々と環境』の場合—, *社会科学研究*, **49**, pp.21-30.
- 梅村松秀 (2006): 理論編「開発」は教科書にどう描かれてきたか—イギリス中等地理教科書における記述から—, *開発教育*, **53**, pp.57-75.
- 阪上弘彬, 尾原達哉, 由井義通 (2015): イギリス地理教科書の導入単元にみる地理学習の意義, *新地理*, **63** (2), pp.45-56.
- 佐藤克士 (2012a): 小学校社会科における観光に関する学習内容の科学化—日英教科書分析を通して—, *新地理*, **60** (2), pp.1-18.
- 佐藤克士 (2012b): 持続可能な社会の形成者育成としての社会科観光学習—イギリス地理テキストブック "Horizons 2 Geography 11-14"を手がかりにして—, *社会系教科教育学研究*, (24), pp.21-30.
- 志村 喬 (2010a): 地理テキストブック研究の展開, 志村 喬: 『現代イギリス地理教育の展開』 風間書房, pp.104-113.
- 志村 喬 (2010b): 初等地図学習教材『マップスタート』における系統性の分析, 志村 喬: 『現代イギリス地理教育の展開』 風間書房, pp.126-140.
- 武元茂人 (2001): 開発教育としての地理学習: イギリス高校地理教科書『発展途上の国々を旅して Across the Developing World』の検討から, *三重大学教育学部研究紀要*, 教育科学, **52**, pp.1-14.
- 藤谷正一 (2001): 開発教育の視点を取り入れたイギリスの地理教科書分析: 途上国の「国家規模の地域的特色」をとらえる学習の観点から, *新地理*, **48** (4), pp.38-48.
- ブルックス クレア著, 志村 喬訳 (2016): 「今現在」のイギリスにおいて地理を教える, *新地理*, **64** (1), pp.22-28.
- 水山光春 (2002): イギリスの中等地理教科書 "Key Geography(1997)" に学ぶもの, *京教社会*, **7**, pp.34-43.
- 森田康夫 (2014): イギリスの中学地理教科書と国土教育: 英国の地理・地学一体教育から学ぶ「防災教育のカタチ」, *JICE report: Report of Japan Institute of Construction Engineering*, **26**, pp.103-116.
- 由井義通ほか (2001-2004): シリーズ: アクティビティ教材の開発と実践 (32回連載), *地理*, **46** (10)~**49** (5).
- 由井義通, 阪上 弘彬, 村田 翔, 杉谷真理子, 佟亜齋娜, 魏 思遥, 後藤雄大, 都築宏幸, 孟瑜, 鎌田祥子, 鎌田祐介, 迫 有香, 中村勇介, 橋本訓典, 藤本理志, 復本真利江 (2016a): イギリスの中等地理教科書における防災学習—単元「河川と洪水」の分析—, *学校教育実践学研究*, **22**, pp.79-88.
- 由井義通, 村田 翔, 阪上弘彬 (2016b): イギリス初等地理テキストブックにおける環境地理学習の特質, *広島大学大学院教育学研究科紀要*, 第二部, 文化教育開発関連領域, **65**, (印刷中).